

にさんかたんそさくげんぶかい
二酸化炭素削減部会

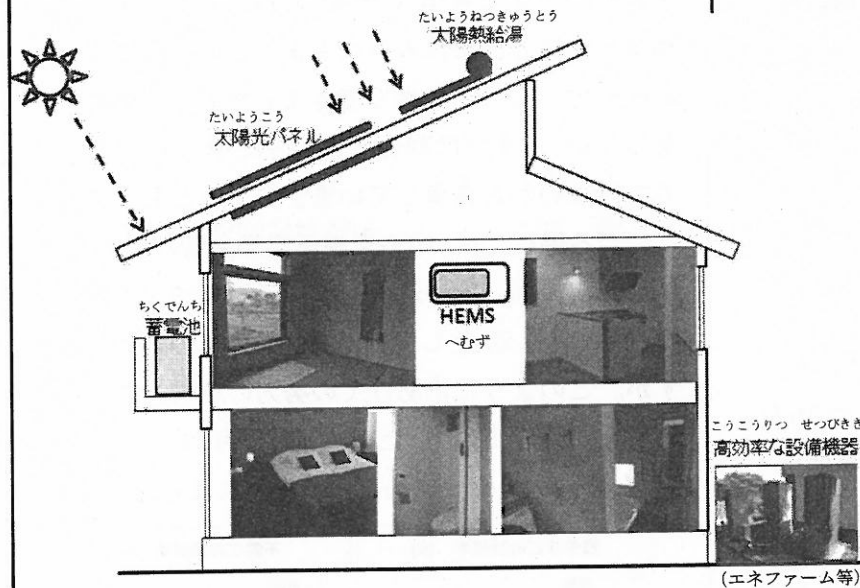
地球温暖化の主な原因である二酸化炭素の削減のための活動を続けています。

省 エネルギーで快適な住まいとは

ZEH(ゼッチ/ゼロエネルギーハウス)は、冷暖房・換気・照明・給湯で使う年間の一次エネルギー消費量(電気やガスを同じ単位にそろえて計算した値)をゼロ以下にすることが可能な住宅のことです。政府は、2020年に新築

戸建の半数以上をZEHにすることを目標にしています。5年後にZEH仕様が標準的な住宅になるかもしれません。

ZEHは「省エネ」、「創エネ」、「蓄エネ」を組み合わせ、機器を制御する「調エネ」によって実現できるといわれています。

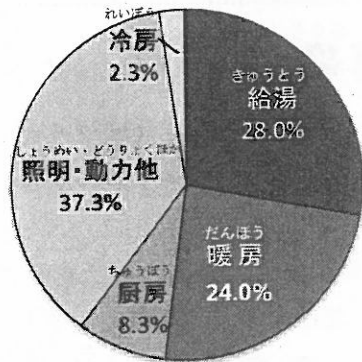


省エネルギーを実現するためには、断熱性能や気密性能といった住宅そのものの性能を向上させることや、日射遮蔽、日射取得を工夫して冷暖房にかかるエネルギーを削減することが重要になります。

既存の住宅においても、断熱改修や高効率な設備機器に交換することで、エネルギー消費量を削減することができます。

住宅のエネルギー消費の内訳

給湯28%、暖房24%が5割以上を占めます。*テレビ、パソコン、洗濯機、冷蔵庫などの家電(動力)のエネルギー消費量は、ZEHの1次エネルギー消費に含みません。



エネルギー白書2014(経済産業省資源エネルギー庁)データをもとに作成

関東学院大学建築・環境学部 専任講師 山口温

省エネ
建築的な工夫によって、建物の性能を向上させる。高断熱・高气密・自然通風・自然採光...

創エネ
太陽や風など自然エネルギーを利用し、エネルギーを創ります。太陽光パネル・太陽熱給湯・小型風力発電・エネファーム...

蓄エネ
太陽光などで発電した電力を貯めて、消費電力の多い日中のピーク時に使用することができます。蓄電池・電気自動車...

調エネ
機器をネットワーク上でコントロールし、管理するシステムです。HEMS

ずしし かんきょうかいぎ ニュース

第34号 2016年2月
事務局 逗子市環境都市部環境管理課
逗子市逗子5-2-16
TEL 046-873-1111

発行 ずしし環境会議(エコリーダーズ会議)

私たちと一緒に、出来ることから活動しましょう

“かんきょう”って一体なんですか？
環境と一口にいっても、さまざまな環境があります。自然環境、生活環境、地球環境...
どれをみても私たちににとって身近で大切なものばかりです。

地球と私たちにやさしい環境づくりに、出来ることから一歩踏み出してみよう！
ずしし環境会議は、市内各地に住む私たち自身で、市の環境を良くしていくために、出来ることから活動しています。

あなたの近所にも きっといるよ！

市内の各地にずしし環境会議の会員はいます！

- 植物ならお任せ！ 大塚さん
- ペット慣れてます 菊池さん
- 省エネ博士 安藤さん
- ごみ分別マスター 栗飯原さん
- エコ広場もよろしくね 松本さん
- バイオマスチーム発足 小屋さん
- 現会長！ 岡山さん
- ストップ！温暖化 栗屋さん
- 海と緑の逗子が好き 進藤さん

かんきょう連続講演会にお越しください！！

普段は、「まちなみと緑の創造」「ごみ問題」「二酸化炭素削減」の3つのテーマごとに部会に分かれて活動していますが、毎年2月に、3部会で連続して講演会を開催しています。

環境に関する活動に取り組んでみたいが、何から取り組んでいいのかわからない方は、是非講演会にお越しください、ずしし環境会議を知るきっかけにしてみてください。

部会	ごみ問題部会	まちなみと緑の創造部会	二酸化炭素削減部会
日時	2月14日(日) 14:00~16:00	2月20日(土) 13:00~14:30	2月28日(日) 13:30~16:00
講師	環境ジャーナリスト 服部 美佐子 氏	神奈川県水産技術センター 亀井 まさのり(正法) 氏	関東学院大学建築・環境学部 専任講師 山口 温 氏
演題	有料化でごみを減らし続ける秘けつを学ぶ	教えて！相模湾のこと さかなのこと	省エネルギーで快適な住まいとは

*場所は市民交流センター第2・3会議室です(3回共通) *：詳細は広報ずし2月号をご覧ください

ご興味を持たれましたら...

ずしし環境会議はみなさんの入会をお待ちしています。ご興味をもたれましたら、まずは事務局の逗子市環境管理課までお問い合わせください。

◎逗子市環境都市部環境管理課◎
電話：046-873-1111 内線456/457
E-mail:kankyo@city.zushi.kanagawa.jp

まちなみと緑の創造部会

当部会では、「**逗子の自然環境を次世代にどのように伝えるか**」をテーマとして活動を続けています。

教えて！相模湾のこと さかなのこと

今回のかんきょう連続講演会に先立ち、講師の亀井さんにお話しを伺ってきました。

まちなみ 亀井さん

亀井さんはどんな子ども時代を過ごして来られたのですか？

釣りが大好きな少年でした。ハゼやフナを夢中になって釣っていました(笑)生まれが東京なもので、当時の子どもたちの娯楽と言えば大体が釣りだったと思います。

では、いつ頃から魚類関係の道へ進もうと思われたのですか？

きっかけは、やはり子ども時代の釣りの経験です。さかなの面白さにすっかり魅了されてしまいました。そして大学、大学院と魚を学んでいきました。

魚類一筋で来られたのですね。すごいです！さかなグッズのコレクションもあると聞きました。

そうですね。好きが高じて自宅はグッズだらけです(笑)もっと親しみを感じてもらえればと思い、折を見て皆さんにご覧いただいています。



コレクションの一部です

当日展示あります

普段、食卓で美味しく食べているさかなや貝たちは、ただ海があれば生きていけるものではありません。食物連鎖というつながりによって微妙なバランスを保っています。私たちの知らない所で、さかなたちや、その環境を守るために日々向き合い努力されている人たちがいます。そして生きものたちも一生懸命生きています。さかなたちのことを「もっと知りたい！」と思う皆さんの気持ちを受け、専門の人たちと生きものたちを繋ぐお手伝いをするのも私たち部会の活動の一つだと考えています。海からの恵みを一緒に考えてみませんか？明日からの「いただきます」「ごちそうさま」がちょっと変わると思いますよ。

今回はどんなお話しをして下さるのですか。
相模湾と東京湾を比べながら、話しを進めていきたいと考えています。逗子市のある三浦半島は両側に相模湾と東京湾という二つの海を持っています。見た目では同じ海であっても、その姿は全然違ってきます。海が違えばそこにすんでいる魚たちや、それらを捕る漁業方法も違ってきます。どの海も同じではないのです。いつも皆さんが触れ合っている身近な海を、様々な視点から比べていけば、きっとわかりやすいと思いますよ。そしてさかなたちのことを知ってもらい、興味を持って下さるひが増えてくれれば嬉しいと考えています。日本人はさかなを見たり、釣ったり、食べたりと色々な形で関わってきました。そんなさかなたちの話です。



講師紹介 亀井まさのり(正法)さん
1967年東京水産大学増殖学科(魚類学研究室)卒業、2005年県水産総合研究所資源環境部長で退職。著書『ああ、そうなんだ！魚講座 通になれる100の質問』『ああ、そういうことか！漁業のしくみ』(恒星社厚生閣)

ごみ問題部会

ごみ問題部会はごみの減量化・資源化をテーマに活動しています。

ぜひご参加ください

かんきょう連続講演会 「有料化でごみを減らし続ける秘けつを学ぶ」

2/14(日) 13:30~15:30
市民交流センター2階会議室
講師：服部 美佐子さん
(環境ジャーナリスト)



環境カウンセラー(環境省)。東京都日の出町の埋め立て処分場問題をきっかけに環境問題に取り組む。現在、廃棄物問題を中心に複数の雑誌に取材記事を連載するほか、全国各地で講演活動。環境省の検討会などを歴任。著書に「ごみ減量～全国自治体の挑戦」(丸善)、共著に「ゴミ分別の異常な世界」(幻冬舎新書、近刊)、「廃棄物列島・日本」(世界思想社、近刊)、「ごみ処理のお金は誰が払うのか 消費者負担から生産者・納税者負担への転換」(合同出版)など。

知恵袋 ～納豆の容器のべたべた解消法～

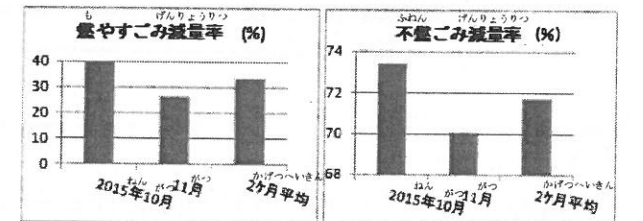
きれいに洗わないと容器プラスチック回収に出せない納豆の容器。洗う水もたくさん必要で無駄ですよね。

解消法はそのままキエーロの土の上に伏せておくだけです。土の中のバクテリアが食べてくれるので、何日か経つと洗ったようにきれいになります。

キエーロがなければ庭の土やプランターの上でも大丈夫です。

ごみ有料化を実施して

私たちは10年以上前から、公平性の観点から、ごみの有料化を提言してきました。その後最終処分場の逼迫から、ごみ減量に迫られ、ごみ有料化を視野に入れた活動をしてきました。連続講演会では2012年、13年、15年と3年間にわたって「やってよかったごみの有料化を学ぶ」のテーマで東洋大教授の山谷修作さんの講演を実施し、市民のみならずとも「ごみの有料化」について学んできました。その効果あつてか、本市では割合スムーズに導入できたのではないかと自負しています。もっとも、ここに至る過程では、市の資源循環課主催の午前、午後、夜の部と全165回、参加者延6129人という、土・日を返上しての説明会あつての賜物ですが、このように市あげての努力の結果のごみの有料化の実施でしたが、10、11月のごみの減量率は次の様な成果として表われました。



有料化の減量率は、本市では、20%を目指していましたが、結果は30%を超える減量で、植木ごみの資源化など他の政策も合わせてですが、市民のみならずの努力がうかがえます。ごみ減量と同時に更にうれしいことは、昨年市民まつりでのアンケートの結果、有料化になって、ごみに対する意識が変わった人が95%と高い率を示していることです。分別意識の向上で10月以降、容プラ・紙ごみが微増していることもうれしい結果です。せっかくの減量率がリバウンドして、もとのもくあみになるようなことは、本市では、ないだろうと期待しています。